

■児童・生徒の学力の状況

- 学習に対して自ら進んで取り組もうとする姿勢は見られるが、積極性に欠ける生徒もいるため、個別に支援が必要な場合もある。
- 「全国学力・学習状況調査」の結果から、国語では情報を整理する問題、数学では「思考・判断・表現」と「記述式」の分野の問題の正答率が低い。英語では「問題を読み取り、適切な英文を書く」ことが課題である。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題

- 《個別最適な学びの視点》
 - ・授業の「振り返り」に対する助言指導を行う。
 - ・すららドリルによる生徒個々の学習の進捗状況を把握する。
 - ・興味関心に基づいて選択できる課題を提示する。
- 《協働的な学びの視点》
 - ・グループで行う活動を積極的に取り入れる。
 - ・活動をとおして、協力し合うスキルを習得させる。

■学校経営方針より（学力向上に関わる内容から）

- 学習指導の充実を図り学び変え続ける力を育成する。
- 「何ができるようになるのか」、そのために「何を学ぶか」「どのように学ぶか」を意識した授業方法を工夫し、個別最適化を視野に入れた授業（スタンダードS）を実践する。
- 習熟度別授業やTTなど小集団活動を活用し、基礎・基本を重視した授業を行うとともに、放課後の補充学習の充実、週末の家庭学習（すららドリルなど）や英語検定・漢字検定、長期休業明けの小テストなどで基礎学力の向上を図る。
- 家庭や小学校と連携し、家庭学習を充実させる。

■確かな学力の育成に向けての具体的な方策

視点1 板橋区授業スタンダードの徹底、及び板橋区授業スタンダードSの取組	視点2 ICT環境の適切な維持と活用 個別最適な学び・協働的な学びの実現	視点3 総合的な学習の時間との連携
○課題設定から振り返りまでの学習の流れを徹底する。 ○「自由進度学習」や「課題別選択型学習」を取り入れ、生徒が自ら「めあて」を立て振り返るプロセスを重視する。	○一人一台端末、デジタル教科書、AIドリルを「学びを調整するための道具」として活用し、個別最適な学びを推進する。	○「プレゼンテーション能力向上」を目標とし、社会に出る上で重視されるコミュニケーション能力の育成を図る。

■MIRAI SCHOOL いたばし-教育ビジョン2035- -アクションプラン2028-の実現に向けた具体的な取組

保幼小接続・小中一貫教育の推進	豊かな心と健やかな体の育成	多様な教育的ニーズへの対応
○12年間の発達段階に応じて、持続可能な社会の創り手となる子どもの育成をめざす。 ○高島幼稚園・高島第二小学校との異校種・異学年交流を推進する。	○年3回のいじめアンケートと「WEB-QU」の適切な分析を行い、不登校の未然防止といじめの組織的対応を徹底する。	○特別支援教室拠点校の利点を生かし、巡回指導教員との「ケース会議」や「連絡会」を通して指導法を全教職員で共有する。